

私と原子力



石原 健彦
元原子力環境整備センター 理事

二〇世紀は「電気の世界」である
 というのが世界的討議の末の結論
 だったが、私はあえて二〇世紀こそ
 すぐれて「核の世紀」（原子力の世紀）
 であつたとみている。

一九世紀末にX線とウランの発見があり、二〇世紀初頭に放射能の発見、量子論の確立、物質構造の解明へとすすんで核分裂の発見にいたり、ついに原子力の解放（はじめは原子爆弾として）が達成され、その後、原子力発電と原子力推進艦船も実用化されるに至った。さらに原子力は科学技術の世界だけでなく国際政治の面で国連の安全保障体制のかげの支えともなり、功罪はあつても二〇世紀はやはり核の時代、原子力の時代

原子力アーカイブスの訴え

木
林
様

であつたと言わざるを得ない。

原子力は短年月の間に基礎的理解から工学的応用、社会的貢献までを果たしており、その足跡を後世にしっかりと残し伝えいくことは、原子力にかかわった我々の義務でないかと考えている。

政治的な公文書館はすでに多数存在しているが、近年学問技術の分野でもアーカイブス（記録保管所、また保管されている古記録）設立の必要性が次第に理解されてきている。わが国でも日本アーカイブス学会が設立され、アーカイブス講座をひらく大学もでき、日本化学会では化学遺産として保存する運動をはじめている。

しかし、私の見るところ工学分野での動きはまだ助走程度のものでしかない。短期間に工学段階にまで達した原子力に因してアーカイブスを立ち上げるには、少数とはいえ一部開拓者たちが生き残っている今のうちに動き始める必要があると考える。

わが国は不幸にも世界初の被爆体
 験をもつことになったが、先人たちが
 切な寄託先の見つかからぬまま一介の
 ゴミとして廃棄されつつある現実が

の指導のもと初期から原子力を第三の火として国を挙げて研究開発利用の道を歩みはじめた。ただ次第に強まる政治的、社会的逆風のなかで、その後の展開は必ずしも順調ではなかった。

初期の研究開発をみてもその一翼を担った原子燃料公社を基礎に設立された動力炉・核燃料開発事業団（動燃）は四半世紀後にあいつぐ不祥事件のため核燃料サイクル開発機構に改組され、さらに日本原子力研究所（原研）と統合されて日本原子力研究開発機構（原子力機構）に改編された。

また産業界の中心的組織として設立された日本原子力産業会議（原産）も近年業界の一層の支持を集める期待のもとに日本原子力産業協会と日本原子力技術協会に改編され、原産会議／協会は事務所を次々と移転することになった。

これら改廃統合移転の間にそれらが集積保管してきた図書館（資料室）資料の一部がかなりの規模で整理廃棄される事態がおこった。

一方、厳しい世相を反映して、この間に亡くなった先輩同僚の家々では、故人の遺した資料類の多くが適

これら不運にも整理廃棄された文献資料、日の目を見ずに廃棄される資料類を救済保存するアーカイブスを今こそ立ち上げるべき時だと私は考えて、先に原研OB会会報で声をあげ、六月末には東京神田の学士会館で同会有志のほか国会図書館OB、電中研OBを加えた小さな集まりをもった。

現状の話し合いと意見交換ののち、いまは小規模であるが動きだしている原研ＯＢ会の資料蒐集計画を大筋で出発点とし、これを順次拡大整備していくことが望ましかろうとほぼ同意された。

なお私個人としてはさらに過去の平均質炉計画、低レベル放射性廃棄物の海洋処分計画、放射線化学反応の工業化など、必ずしも充分な検討のなされないまま忽々の間に中止が決められ、いま半ば忘れ去られようとしている諸計画の關係資料や、その他の公刊されていない内部資料類についても蒐集保存し、のちのちの研究開発者に役立たせ得ることは望めないものかと考えている。

今後の学界関係者の理解と応援を期待したい。

発行日前なので、まだ外部に出せないのので取扱注意願います。
9月20日が発行日です。よろしくお願い致します。エネルギーレビュー

秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘 秘